

ジオパーク、世界へ出帆

■ジオパークとは

「ジオパーク」という言葉をみなさんの多くが聞いたことがあると思います。ただ、その詳細までは知らないという人がほとんどかもしれません。簡単に、ジオパークとは「そこで見られないような珍しい地質や地形が広がっている自然公園」を指します。また、ジオパークは、地質や地形だけでなく、そこに暮らす人々の生活や文化も対象とします。

ジオパークには、日本ジオパーク委員会が認定する日本ジオパークと、ユネスコが認定するユネスコ世界ジオパークがあります。現在、日本ジオパークには48地域が認定され、そのうちの11地域がユネスコ世界ジオパークに認定されています。県内では、八峰白神（八峰町）、男鹿半島・大潟（男鹿市・大潟村）、ゆざわ（湯沢市）、鳥海山・飛島の4地域が日本ジオパークに認定されています。

■鳥海山・飛島ジオパークの取組み

鳥海山・飛島ジオパークの範囲は、鳥海山から飛島にかけての日本海に面したエリアとなります。また、同推進協議会には、由利本荘市・にかほ市・遊佐町・酒田市の3市1町の行政や商工団体など多くの関係機関が参加しています。

鳥海山・飛島ジオパークは、2016年に初認定を受け、4年毎に行われる再審査を2度クリアするなど安定した活動が続けてきました。おかげさまで、鳥海山・飛島ジオパークの認知度および理解度は、推進協議会メンバーのみならず、

ジオガイドや教育現場あるいは企業を含めた多くのみなさんの努力によって年々深まってきていると感じています。引き続き広報活動・PR活動を通じ、もっと多くのみなさんに知ってもらい、守り伝えていけるよう努力をしてまいります。

■天然記念物「象潟」を例に

鳥海山・飛島ジオパークのキャッチフレーズは「日本海と大地がつくる命の循環」です。それは「私たちは、海と山、日本海と鳥海山がつくりだした大地のうえに暮らし、そこから多くの恵みを受け取っている」ことを端的に表現したものです。

たとえば、にかほエリアにある特徴的な地質サイトに天然記念物「象潟」があります。紀元前466年に鳥海山の山体崩壊による岩石が市内のあちこちに流れ山を作りしました。その一部が遠浅の潟湖の中の島々となり「象潟」をつくり上げました。この大地が作り出した景観は、新古今和歌集に象潟を詠んだ歌が登場するように、鎌倉時代以前から、多くの人々を魅了してきました。江戸時代には、松尾芭蕉がこの景色に憧れて「奥の細道」の目的地として訪れるなど、当時の象潟は一大観光地だったことがわかります。

ところが、1804年の象潟大地震による陸地の隆起により潟湖は陸地となつてしまい、観光業は一気に衰えていきました。代わりに、陸地になった島の周辺は新田開発され水田として活用されるよ

うになりました。

もちろん象潟の景観は火山噴火や地震の記録として地質学的に重要です。あわせて、ジオパークが大事にしていることとして、冒頭でも触れましたが、隆起前の象潟は観光業で栄え、隆起後は農業で活用されてきたという事実が示すように、大地の歴史が人々の暮らしや産業に直接的に影響を与え、いまある信仰や音楽などの伝承芸能を生み出してきたといった、それぞれのストーリーを一つにまとめて価値ある体系として組み立てることがあります。

■世界ジオパークに向けて

5月23日に幕張で開催された「ユネスコ世界ジオパーク国内推薦プレゼンテーション」に出席し、プレゼンを行ってきました。ユネスコ世界ジオパークの申請には日本ユネスコ国内委員会の推薦が必要で、推薦の可否が決定するのは9月頃で、可となればそのままユネスコ世界ジオパークへの本申請となります。

ユネスコ世界ジオパークの認定は地域経済に大きな波及効果をもたらしますが、とても高いハードルではありますが、その実現に向けていままさに突き進んでいるところです。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

